



弦楽器シリーズ誕生秘話

12年半の年月を経て発売

現在では、様々な弦楽器シリーズがある中、最初誕生したのは「バイオリン」でした。

楽器に使う高品質な材料からなるラケットは、重量が100~120gと重く、逆に軽めの素材は打球感が悪くさらに接着面が弱いので、ラバーを剥がすと板まで剥がれてしまうなど、課題が多くありました。試行錯誤を繰り返した結果、1年半後にはベースとなるラケットが完成。しかし、価格面で折り合いがつかず発売には至りませんでした。

その10年後、再び開発にあたり、材料の再選定や接着の改良により、品質・打球感・重量のどれにおいても納得のいくラケットが完成。価格に関しても当時は高価格帯ではありましたが、なんとか手にしていただける価格を実現することができました。

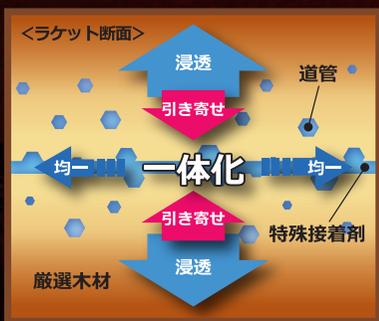
Nittaku ベストセラーラケット

弦楽器シリーズに迫る!

弦楽器シリーズの特徴

木材組織のはなし

卓球のラケットは、天然の木材を材料として製造しています。その木材組織の細胞は主に、道管(どうかん)・繊維細胞・柔細胞の3つから成り立っています。それらが木材の中で縦横複雑に配列されています。



※図はイメージです。

弦楽器シリーズのはなし

このような弦楽器製造技術をラケットの合板製造工程に用いることによって、

- ・硬さのバラつきがなくスイートエリアの拡大
- ・独特の芯があるような打球感
- ・繊細なボールタッチ
- ・安定した威力のある弾み
- ・木材本来の打球感を最大限に引き出すこれらのことを実現しています。

主カラケット バイオリンとアコースティックの違い

バイオリン

アッシュという木材を表面板に使用していて、しなりと粘りがあるのが特徴。野球のバットにも使用されている素材。独特な「しなり」と「打球感の心地よさ」を実現している。木材の特徴と弦楽器の接着材の相性がいい。今までにないラケットに仕上がっています。

アコースティック

リンバ材という一般的に卓球のラケットとして多く使われている木材を使用している。弦楽器製法ながらも現在の一般的なラケットの特徴をベースにしています。



Violin
バイオリン



Acoustic
アコースティック

弦楽器製造技術のはなし

弦楽器に使われている木材(合板)の接着技術である「弦楽器製造技術」とは、表面にある微細な凹凸に特殊接着剤を均一に入れ込むという弦楽器の接着技術を用いることで、木材同士がお互いに引き寄せられ一体化します。この一体化は、心地よい音を奏でるために必要不可欠な技術とされ、弦楽器自体の音を決める上で重要な製造工程の一つであると言われています。

ドライブやスマッシュ、表ソフトを操るなど、変幻自在の伊藤美誠選手(スターツSC)はアコースティックカーボンを使用。オールマイティな技術にアコースティックは適していると言える



伊藤美誠
(スターツSC)

弦楽器シリーズラインナップ

バイオリン P-H



バイオリンは他に、日本式ペン(角、角丸)、中国式ペン、キッズ用のコンパクトモデルがある

アコースティックC



アコースティックは他に、グリップを少し太めにしたLGタイプ(木材、カーボン、カーボンインナー)、中国式ペン(木材、カーボン、カーボンインナー)、がある

テナー



アコースティックのブレードを厚くすることでパワープレーに適したモデル

ピオンセロ



バイオリンをベースとした攻撃も重視するカットモデル